

二三六三番

岡崎をかきの 廻たみたる道みちを 人ひとな通かよひそ ありつつも
君きみが来きまさむ 避よき道みちにせむ

二三六四番

玉たま垂だれの 小を簾すのすけきに 入いり通かよひ来こね たらち
ねの 母ははが問とはさば 風かせと申まをさむ

二三六五番

うちひさす 宮みや道ぢに逢あひし 人ひと妻づま故ゑに 玉たまの緒を
思おもひ乱みだれて 寝ぬる夜よしそ多おほき

二三六六番

まそ鏡かがみ 見みしかと思おもふ 妹いもも逢あはぬかも 玉たまの
緒をの 絶たえたる恋こひの 繁しげきこのころ

二三六七番

海原うなはらの 路みちに乘のりてや 我あが恋こひ居をらむ 大舟おほぶねの
ゆたにあるらむ 人ひとの見こゆゑ故に